

# 会 議 録

## 1 会議名

令和4年度第14回直江津区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

### 【協議事項】

- ・地域活性化の方向性について（公開）

## 3 開催日時

令和5年3月22日（水）午後6時30分から午後7時33分

## 4 開催場所

上越市レインボーセンター 多目的ホール

## 5 傍聴人の数

0人

## 6 非公開の理由

—

## 7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 青山恭造（会長）、田中美佳（副会長）、今川芳夫、久保田幸正、坂井芳美、田中 実、田村雅春、中澤武志、古澤悦雄、増田和昭、水澤敏夫、水島正人（欠席者4名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：中村センター長、小川係長、千田主任

## 8 発言の内容

### 【中村センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

### 【青山会長】

- ・挨拶
  - ・会議録の確認：田中美佳副会長、田中実委員に依頼
- 議題【協議事項】地域活性化の方向性について、事務局へ説明を求める。

### 【小川係長】

- ・資料No.1 「直江津区における『地域活性化の方向性』の作成について」及び、
  - 資料No.2 「これまでの意見交換等が出された直江津区の魅力・特性・次世代に残したいものなど（地域の活性化に向けた意見）」に基づき説明
- 本日は、今後の進め方について協議いただきたい。

**【青山会長】**

説明に対し、質疑を求める。

**【増田委員】**

やることと作成目的が合っていない。やることは、「私たち地域協議会が地域に何が必要かを地域の皆さんで考えましょう」というスタンスだが、本来は目的をそう書かなくてはいけない。目的を「市の取組の企画の参考とさせていただく」というのはどういうことか。我々があげた企画をどの段階で市の企画に取り入れるのか、取り入れないのか。参考というのは、聞いても聞かなくてもいいという位置付けである。こんないい加減なことで、私たちが直江津区をどうしようか一生懸命考えるのか。どうもしっくりいかない。「地域協議会と市の認識の共有を図るため」とあるが、今さら認識の共有も何もあったものではない。要は行政が何を考えているのかということがあるわけだから、ここでは、何か私達が違うことを考えているようなことを言っている。だから、どうもしっくりこない。この目的は直江津区を今後どういう直江津区にしたいかという観点から、場合によっては地域独自の予算に反映させる施策を考えて、直江津区を盛り上げようという主旨であればわかるが、その点について事務局で何か考えがあったらお聞かせ願いたい。

**【中村センター長】**

地域住民や活動団体との意見交換するのだから、住民の方と地域協議会との認識の共有が第一ということは、そのとおりだと思う。また、一つの直江津区における地域活性化に向けた方向性の目標と言えるものを言葉として委員同士で、共有していただきたいということで、市のほうも直江津区を取組はこうやっているのだなということを知っていくということになるかと思う。また、地域独自の予算についても、地域活性化の方向性としてテーマ、もしくは、構成要素にこういう町を目指そう、こうやって元気にしていこうということで、それと独自の予算は、絶対に繋がってはいけないというわけではないので、方向性として活用し、それを念頭に一緒に考えていただくということは差し支えないと考えている。

### 【田村委員】

今まで直江津区の問題は、古城の問題と三八朝市の問題と、五智公園の問題といろいろ出てきたが、着地点はどこに置くかみんな意見を出したはずである。これが、どのように兼ね合っているのか。それが直江津区を少しでも発展させ、歴史文化も繋いでいく、そういうことが今の我々の仕事だと思って、それぞれ意見を出したと思う。それを今度どうするのか。上越市はそれをどういうふうに持っていこうとしているのかわからないので、皆さんと協議しても、なかなか具体的に目に見えてこないのではないのかと私は思う。

### 【中村センター長】

田村委員から福島城の関係、三八朝市についても、今まで当協議会で議論してきたというお話をいただいた。これまでは福島城、三八朝市を課題という面から考えていたが、逆に、魅力や個性、特性として、前向きに構成要素からイメージしていってもらえればいいのかと思う。

一つの事をマイナス面からではなくて、こういういいところがある、こういうところ伸ばしたい、これって特性だというふうに考えいただくことで、それも地域課題に結びついていくのかと思っている。この地域活性化の方向性については、今年度中に着手していただきたいということで、年度当初依頼させてもらった。28区地域協議会がある中で、現在6、7つほど完成した区がある。直江津区については、今年度中に着手していただいたので、市の依頼どおり進んでいると認識しているし、逆に、いつまでに完成しなければならないという期限はない。地域独自の予算も踏まえながら考えていただくと、急いで検討した方がいいかもしれないし、それはそれで地域活性化の方向性は検討していくことでも、どちらでも結構である。私どもが管轄している6つの区でも、有田区は決定しているし、まだ先になりそうな区もある。

### 【田中実委員】

去年の夏にうみまちアートを実行委員会でやられたが、今年も8月にやるような情報が入っているが、事務局は承知されているか。

### 【中村センター長】

現在開会中の市議会3月定例会に市の予算として提案している。ただ、こちらについては地域独自の予算ではなく、企画政策課で所管している予算として、実行委員会に補助金を出すという独自の予算とは別のスキームである。

今後の進め方について協議しているが、4月、5月の協議の進捗状況によって修正していただくことも可能なので、それをふまえて決めていただきたい。

#### 【増田委員】

一生懸命説明していただいたが、何をやるのかどうもピンとこない。ここに参考資料として頸城区の例が挙げられている。頸城区でこれが完成して、これをどうするのか。これを作るのが目的ではない。これを作ってその先何をどうするのが見えないわけなので、そこがはっきりしないとよくわからないということになる。例えば、構成要素の中にいろいろあるのは、これに対して市の事業として企画政策課が予算をつけるとか、そういう話がはっきりみえれば、「俺たちは直江津をこうしたいために、ここに予算をつけてもらおうじゃないか」ということで、先ほどの三つの方向とか、もっとしっかり出すことができる。そこが、どうもしっくりこない。もう一つは、今後の進め方の案の7月～8月のところで、「活性化の方向性を協議して決定します」とある。例えば、決定後、具体的な取組の検討とあるが、誰が何をするか。何を検討して検討した結果どのように反映するのか。そういうところがストーリーとして全然見えない。そこをもう少しわかりやすく、見えやすく説明してもらおうとありがたい。皆さんは、おわかりいただけるかどうか分からないが、これでは何を話したらよいかよくわからない。極端なことを言うとならぬ頸城区の上の大きな括りを、直江津に直して、下のほうの1から5を福島城と三八朝市と五智公園の3つ入れたら、出来上がるのではないかという話になる。その辺のところを我々がイメージできてこっちの方向を見て、みんなで考えようではないかというふうに走り出せるようにもう少し詳しい説明をお願いしたい。

#### 【中村センター長】

地域活性化の方向性の構成要素にあるものについて、市のほうで予算が必ずつくといった約束は残念ながらできない。ただ、直江津区として、こういうまちにしていきたいということで、考えていくということについては、地域協議会として検討していただくことは全く問題ないし、ぜひ進めてほしい。あと、具体的な取組の検討、こうしていきたいが、誰がやるのか、どうするのか、いつやるのか、逆にできないことの問題点もあるかもしれない。そういうことを決定した後で、協議いただくということも想定している。

#### 【古澤委員】

例えば、予算の付け方はどうなってくるのか。一生懸命案を出しても、これでは駄目

だと言われる懸念は多々あるかと思う。あらかじめその辺のアウトラインとしてどういうものについて出す、どういうものについては出せませんという線引きがなければ幾ら立派な計画書を作っても、決める段階で馴染まないということが想定されるという懸念がある。その辺の計画の立て方の中で、目指すものはどういうことなのか、どういうことができるのかという部分を示していただかないと、幾ら議論してもこれは駄目だったということになると絵に書いた餅になってしまうので、その辺を詳しく教えていただければと思っている。地域独自の予算のあり方についての説明会等もあるが、そちらのほうもきちんと把握していないので、それをきちんと把握する中で、話が始まっていったほうが取り組みやすいと感じるので、事務局も説明会の中で私たちに教えていただければありがたい。

**【田中実委員】**

先般、観光についていろいろ申し上げたが、観光については、通年観光ということで、打ち上げておられるが、なかなかうまくいかないということで、観光については、高田区、春日区、直江津区にお任せするということである。まだ議会中なので、正式なことは言えないだろうが、若干の経費がつくのではないかと思う。それで、アート事業について話を上げたが、そういう流れの中で事務局もはっきり言えないだろうと推測できる。

**【中村センター長】**

市の予算の裏付けがないと提案できないだろうということだが、例えば、市の予算が必要なもの、最終的に市の補助が必要なものと、地域団体等で取り組めるようなものというものもあろうかと思う。それは、最終的にどうしても最後は市に予算を頼まなくてはならないというものであったとしても、この方向性に載ったことが、市の予算を確保できるというお約束は、残念ながらできないが、地域としてこういうまちを目指したいということは定めていただいて差し支えないということである。

**【田中実委員】**

そういうことであれば、この7、8月に関して、「決定」とか「決定後の具体的な取組の検討」と記載しないで、こういうことも可能ではないかという、ただし書きの方がいい。このように決定ということになれば、提案数が少なければ、私たちの提案したものが決定されるのだと理解してしまう。

**【中村センター長】**

進め方の案なので、このとおりでなくても構わない。もう少し事務局からの説明を詳

しくということであればそこに時間かけていただくということも可能かと思う。

**【田中実委員】**

この「地域協議会で」というのはやめていただきたい。一般市民の方からアイデアを出していただいたらどうか。何もかも地域協議会の名を出すことは良くはないと思う。逆に言えば越権行為になるのではないか。

**【田村委員】**

私は越権行為だとは思わない。1つは、我々は今まで冒頭に私言った3つのお話を地域協議会委員になってからずっと一貫してやってきた。これを最後の仕事として何とか決着をつけてというか、場所も含めて予算化していきたい。この18日の朝市に花を買いに行った。本当に人が少なくて、お店も少なくて、寂しい限りだった。それでも1時間ぐらいの間で50人位来ていた。あの寒い中でも、来るお客はいるのだと思ったし、もう少し条件が良ければ、少しは前のような朝市になるのではないかと思った。自分で書いた案もあるが、地域協議会の皆さんもいろいろ案を出してくれた。そういうことが、本当に実現できるのかという疑心暗鬼になっている。7月に具体的な取組の検討と書いてある。せめて予算化する方向性を示してほしいと思った。三八朝市の問題だけではない。直江津のいろいろな問題を出したら、対応の方向性を指示してほしい。その取っ掛かりを作るのは、地域協議会委員ではないのか。

**【増田委員】**

地域独自の予算が令和5年度はバタバタと団体だけが応募するような形で決まってしまう。令和6年度の地域独自の予算をどのように進めるのかということのビジョンがよく見えない。私たちが言っているのは、当初私たちに示してもらったように、地域の課題解決のために、センターと地域協議会と地域の皆さんと一緒に考えて、地域のために、予算を作りましょうという建前になっている。そのように進んでいって、予算なので、早くて9月末まで、遅くても10月末までにまとめないといけない。そういうことであれば、ここで言っていることは非常によく皆さんもわかると思う。直江津区を良くするために、皆さんが「直江津っていいね」という地域にするために、「みんなで予算をどうしたらいいか考えましょう、そのために、センターも地域協議会も市民の皆さんみんなで汗をかきますよ、そのためのスケジュールはここにありますが、今後の進め方ですよ」というふうに言っただけならばすごくよくわかる。そうでないと、何だか雲をつかむような話で、何のためにこれを協議するのか、よくわからないので、地

地域協議会としては、直江津を良くするために3者が一生懸命話し合っ、直江津区の地域独自の予算を考えて、まちづくりセンターの事業としてぜひ提案してほしいと思っている。令和5年度予算の時は、団体の皆さんが申請する際に、地域協議会は横に置かれて、何をどういう話をしたかわからないということだったが、団体の皆さんともじっくり話をする中で、直江津区の予算を作っていたらよいのではないかと思う。そのやり方の方向性について、事務局と意見があれば、その方向で一生懸命やればよいなと思うがいかがか。

#### 【中村センター長】

地域独自の予算の話に入っていると思うが、頸城区の参考資料をご覧いただきたい。構成要素の中に大池・小池を生かした観光とか、頸城のお宝の活用というものがある。頸城区では、最終的に市の予算がつくものもあるかもしれないが、必ずしもこれが載っているからといって、市で予算をつけるという保障はできない。ただ、結果的につくものもある。そういう意味で、あくまでもまちづくりの目標というか、キャッチフレーズとして、こういうまちを目指しているのだ、こうやって元気したいのだというところを示すものが、地域活性化の方向性だということをご理解いただきたいと思う。また、地域独自の予算の考え方については、昨年秋、説明したとおり、昨年は暫定的に令和元年度から4年度までの地域活動支援事業に提案いただいた団体を対象にしたものが中心になってしまったが、令和6年度に向けては、地域協議会とも情報共有しながら、地域協議会とまちづくりセンターで地域独自の予算にこういうものを提案できるのではないかという話、もしくは、活動団体の意見聴取、意見交換なども考えていければと思っている。

#### 【田中実委員】

今日、久々に名立区に行ってきた。地域の人に、「人口が減ってどうにもなりませんね」と話したら、「10数人移住されている」と話してくれた。それは名立区では古民家を活用して、東京、千葉から、外国人も1組来たということである。名立区にどんな魅力があるのか聞いたら、海と山で生活していきたいという移住者が多いのだそうだ。直江津の町、先ほどから三八朝市、福島城等いろいろ述べておられるが、本当に直江津の魅力は何か、皆さん考えたことがあるか。私は、春日山から直江津に来たが、春日山にいた時は上杉謙信。本当に直江津の町の魅力は何なのかということのを常々思っている。イベントということであれば、実際私も春日山の中でやってきたので、ある程度の人数を集

められるイベントを組むことはできる。直江津の町をこれで売り出していこうという気迫が欠けているのではないかと思う。

**【青山会長】**

資料No.2の「今後の審議テーマについて：直江津区地域協議会」の欄を読んでもらえば、直江津区でやりたいものが、これでおおよそ見当はつくと思う。

**【田中実委員】**

資料も読んだが、本当ですかと言いたいぐらいである。

**【青山会長】**

その他にあるのか。

**【水島委員】**

今日の会議は、直江津区における地域活性化の方向性ということでお話になっていると思っている。先ほどから、皆さんいろいろご質問等をされているわけで、その点に絞って方向性をこの会として決めていくことが今日の議題じゃないかと思う。できればわかるような方向に進めていただければありがたい。

**【青山会長】**

今は今後の進め方について、7月から8月の地域協議会の方向性の協議として決定後、具体的な取組についてはどうするのか、それを話してもらいたい。

**【増田委員】**

直江津に魅力があるかどうか、そういう問題ではなくて、私たちが私たちの直江津を住民の皆さんが住み良くするためにはどうしたらいいかということを経済協議会で一生懸命考えましょう、行政と一緒に考えましょう、地域の住民の皆さんと一緒に考えましょうと考えた結果こういうまちにしたいというものを持って、それを具体化するために、令和6年度の地域独自の予算に予算計上していくようにやりませんかと私は話をしている。非常に明確にわかりやすいと思う。だから、誰がやるのかではなくて、私たちが中心になって、何とか直江津のまちを盛り上げていきたい、地域の皆さんが住みよいまちだというまちにしたいという思いを持って進めていったらどうだろうかと言っているのです、ご理解いただきたい。

**【青山会長】**

具体的に7月から8月の方向性についてどうすべきだと思うか。

**【増田委員】**

いくらい計画を作っても、実際に予算をつけて着手していかなければ実現できないから、令和6年度はとりあえず何をやるか結論を出して、9月末までに予算化しましょうという明確な方針がある。今後の進め方の日程についてだが、本当は地域住民や団体との意見交換ということと地域独自予算の説明を早くしなくてはいけないのだが、5月25日発行の広報で周知すると言っているが広報に載せるためには、4月25日は原稿的に間に合わない。ただ、北部まちづくりセンターとして、広報に載せるのではなくて、4月25日の広報と一緒にお知らせを配ろうというふうに思ったら十分間に合う。4月25日の広報と一緒に地域協議会だよりを出せば、5月の末に地域住民の皆さんと意見交換ができる。そうすると、1か月余裕ができるので予算化に向けてかなり精力的に動くことができる。基本的にはこの進め方でいいと思う。

**【田中美佳副会長】**

増田委員が、4月25日の広報に載せるのではなく、チラシと一緒に入れれば間に合うのではないかと言われたが、それは可能か。

**【小川係長】**

4月25日発行の地域協議会だよりは、全戸配布だと間に合わないが、回覧であれば可能である。

**【古澤委員】**

回覧でも良いと思う。

**【田中美佳副会長】**

先ほど増田委員が言われたように、地域協議会、北部まちづくりセンター、地域の住民の皆さんが同じ方向に向かないとなかなかいい方向にはいかないと思う。市の行政の話なので、センターの方たちも「そうです」と簡単にお答えしていただけないのはわかる。ただ、そちらの方向に向かえるように皆さんでやっていただくことは可能なのかをお聞きしたかった。そこは違いますとか、予算が付かないかもしれないけれども、付く方向に向けてみんなでやっていけたらいいのではないかなと思う。そちらの方向に行くように皆さんのアイデアが出てきて、1か月早くなったりもしたし、それがないと、先ほどの話ではないが進んでいかないと思う。今までも田村委員がお話してくださったように、いっぱい話をしてもなかなか前に進んでいかないのは、お金がつかなくなったり、具体的な話がなかったりだと思う。今ちょうどこういう仕組みができてきて、難しいと思うが、皆さんすごく一生懸命考えていらっしゃるので、センターにもそのようにお願い

したい。

**【中村センター長】**

センターとしても同じ気持ちだと思っている。まちづくりセンターとしても直江津のまちを元気にしたいという思いは一緒である。そのように、ただ、予算などでできないことはできないということがあれば、話はさせてもらいたいと思うが、まちを元気にしたい気持ちは一緒なので、皆さんと相談しながら進めていければと思っている。

**【田中実委員】**

先ほどから大変失礼なことをお話したかと思う。市の予算がいただければ、すばらしいが、この直江津の町の商店街もある。何々商店街、何々振興会という形かと思うが、町の活性化という形で、国なり県から補助金が出るはずである。そういうものを活用しながら、市の予算と合わせて、その両方は駄目かどうか定かではないが、あわせて企画をされれば、ある程度市の予算を当てにしなくても実行できる。

先ほどから予算の関係で、少し難しいとかという話も出てきているが、そういったものを活用しながら、提案する方法もあるはずである。

**【増田委員】**

他の予算をどうやって使うか考える場ではない。直江津の町のために一生懸命になって予算をつけてくださいということを目指して活動するのは、地域協議会の役割である。もらえたらラッキーだとか、つかないかもしれないではなく、つかなかったら、我々と市長と対話をすればいいではないか。なんでつかないのか、そのくらいの気概を持ってやらないと、予算も町も良くなる。誰かがやってくれるという考え方は、私は駄目だと思う。そのくらいの気持ちで進めていきたい。そのためには、ぜひともセンターも一緒をお願いしたいということである。

**【田中実委員】**

それはわかるが、あんまり予算とおっしゃられるから、こういう方法もあるということをお話ただけであって、行政を抜きにするとかそういうことを言った覚えはないと思う。

**【青山会長】**

参考意見として伺っておく。それでは、先ほど決定した進め方でいきたいと思う。

**【古澤委員】**

ターゲットをある程度絞って声をかけないと、出席者が誰もいないと困る。コロナ禍

の関係で、夕方の会議は嫌がられているので、その辺の相談も必要だと思う。

**【青山会長】**

今までの意見交換会は、午前中だったので、その辺は問題ないと思う。

次に、「その他」について、事務局へ説明を求める。

**【小川係長】**

- ・「上越市消防団上越方面隊直江津分団の組織体制の見通しについて（最終報告）」に基づき説明

また、前回の協議会で地元消防団へのアンケートについて、事務局案どおりということでご了承いただいたので、危機管理課を通じて直江津分団長から各部長へ依頼をしたと報告があった。回答の提出は時間がほしいということで、4月の見込みになっている。回答結果がまとまり次第、報告させていただいて、今後の取扱いについて協議していただければと思う。

- ・次回協議会：4月12日（水）午後6時30分から

**【増田委員】**

今、市議会で予算を審議しているが、予算の中でまちなか居住について、去年まで高田でまちなか居住をやっていたが、今年から直江津のまちなか居住をとという話が古澤委員のところに話きたようだが、他の方がどういう中身かよくわかってないと思う。これから私たちがまちのことを話し合う上で、空き家の活用とか、必ず問題になるので、担当課から説明してもらったらどうかと思う。

もう1つは、水族館が5年に1回リニューアルすることになっているが、見送ったという話があるので、その話も私たちに報告してほしい。

**【中村センター長】**

まちなか居住とうみがたりについて、早めに担当課と調整して説明を受けれるようにしていきたいと思う。

**【増田委員】**

うみまちアートは、企画政策課の事業としてやるという話だが、それであるならば、その件についても、私たちに内容を知らせてほしいと思う。地域協議会が全く知らない状態で、いろいろなところが進んでいくというのは非常にまずいと思う。地域協議会が地域、行政と一体になって町のことを考えていくというスタンスでいかないとまずいと思う。我々も肝に銘じるが、行政としても肝に銘じていただいて、しっかりと私たちに

知らせてほしいと思う。

**【中村センター長】**

担当課と調整していきたいと思う。

**【青山会長】**

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。